



2018年3月期 連結決算概要

連結業績サマリー



■ 業績要旨

- ・ 前期比、“減収増益（営業・経常減益）決算”となった。

■ 主な要因（対前期比）

- ・ 受注高は、565億円と前期比41億円の増加となった。主に鉄道、道路、屋内外の各部門において大型プロジェクト工事を受注したことによる。
- ・ 売上高は、526億円と前期比19億円の減少となった。主に道路設備部門における前期大型工事完成の反動減及び屋内外電気設備部門の売上高減少によるものである。
- ・ 営業利益は、工事原価低減による採算性向上等、収益向上に努めたものの、売上高の減少等により、39億円と前期比5億円の減少となった。
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益は、投資有価証券売却益の計上により、38億円と前期比2億円の増加となった。

連結損益計算書



(億円)

	2017年3月期	2018年3月期	前期比	公表値※	公表比
受注高	524	565	+41	—	—
売上高	546	526	▲19	552	▲25
営業利益	45 8.3%	39 7.5%	▲5	46	▲6
経常利益	51 9.4%	46 8.8%	▲4	51	▲4
親会社株主に帰属する当期純利益	35 6.6%	38 7.4%	+2	35	+2

※ 公表値は、決算短信で公表している通期の予想値となります。

※ 記載されている割合は、利益率を表しております。

※ 前期比含め各数値は、表示単位未満を切り捨てて表示し、比率は単位未満を四捨五入しております。(以降同様)

連結貸借対照表



	2017年3月期	2018年3月期	(億円) 増減
流動資産	400	400	▲0
固定資産	276	323	+46
資産合計	677	723	+46
流動負債	180	189	+8
固定負債	70	69	▲0
負債合計	251	259	+8
純資産合計	426	464	+37
負債純資産合計	677	723	+46
自己資本比率	63.0%	64.1%	+1.1P

※自己資本比率 = (純資産-非支配株主持分) / 総資産

セグメント別 売上高・利益



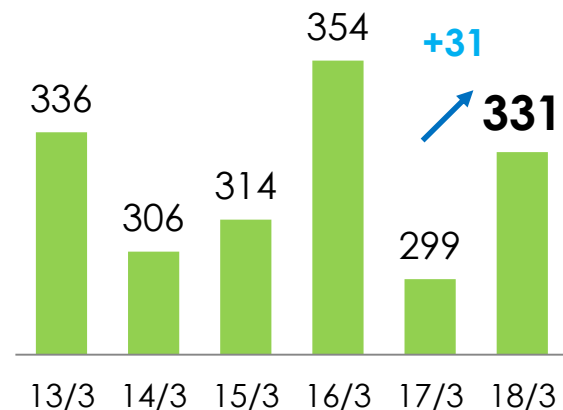
(億円)

	2017年3月期	2018年3月期	前期比
売上高 ※1	546	526	▲19
電気設備工事業	509	490	▲18
兼業事業	32	31	▲1
不動産賃貸事業	4	4	+0
セグメント利益	68	63	▲4
電気設備工事業	63	59	▲3
兼業事業	3	3	▲0
不動産賃貸事業	1	1	▲0
調整額 ※2	▲22	▲24	▲1
連結営業利益	45	39	▲5

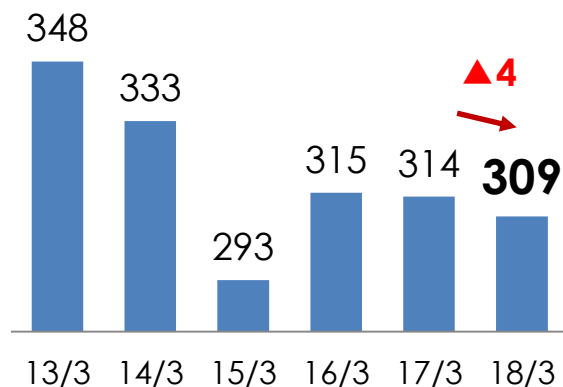
※1 セグメント別売上高は、外部顧客に対するものであります。

※2 「調整額」には、報告セグメントに帰属しない本社費用等が含まれます。

■ 受注高 (億円)



■ 売上高 (億円)



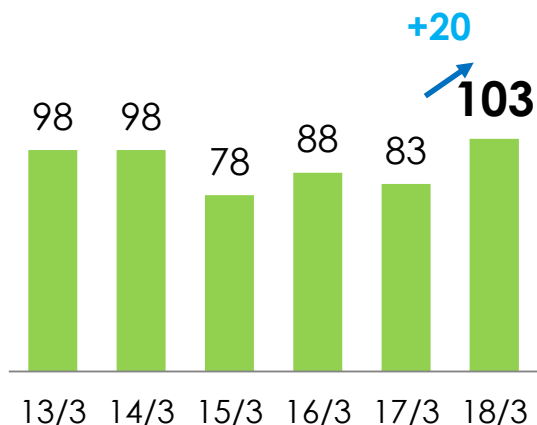
主なポイント

- 受注高は、331億円と前期比31億円の増加となった。首都圏における大型信号工事をはじめ、各鉄道電気分野の受注及び東北地区の駅構内設備改良や電化柱耐震補強工事など、各鉄道会社から堅調に受注を伸ばしたことによる。
- 売上高は、前期より繰越した大型工事が寄与し、309億円と前期並みの水準となった。

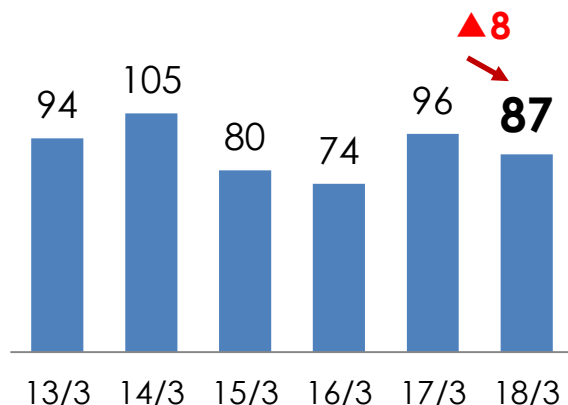
主な施工実績

- ・ 戸塚駅外2区間信号設備改良
- ・ 千葉駅改良橋上駅舎電力設備新設他
- ・ 甲府駅連動装置取替信号設備改良他
- ・ 葛西臨海公園駅二俣新町駅間中間信号設備改良
- ・ 東海道線横浜・保土ヶ谷間終点方配電線路改良他
- ・ 東北新幹線福島・一ノ関間電化柱耐震補強
- ・ 新水沢変電所外保全情報装置新設他

■ 受注高 (億円)



■ 売上高 (億円)



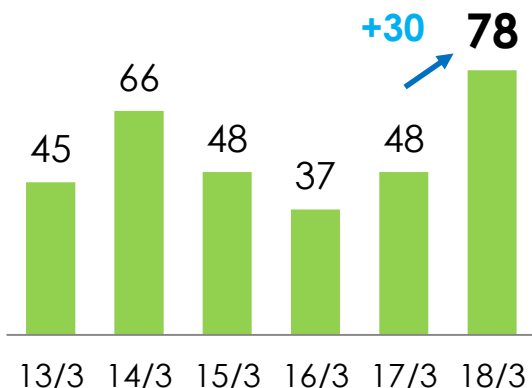
主なポイント

- 受注高は、首都高速道路(株)から高速横浜環状北西線における大型プロジェクト工事や各県警からの交通信号機工事を受注したことにより、前期比20億円増加の103億円となった。
- 売上高は、前期に完成した大型プロジェクト工事の反動減により、87億円と前期比8億円の減少となった。

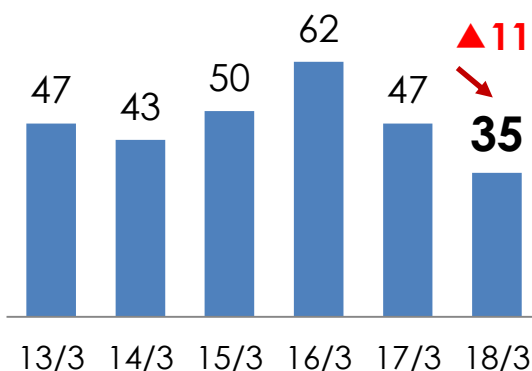
主な施工実績

- ・ 標識補修 28 - 1 (東京)
- ・ 東京都 23 区内交通信号機応急工事
- ・ 交通信号機改良工事 (東京)
- ・ 交通信号機改良工事第 2 次 (愛知)
- ・ 交通信号集中制御機整備等工事 (岐阜)

■ 受注高 (億円)



■ 売上高 (億円)



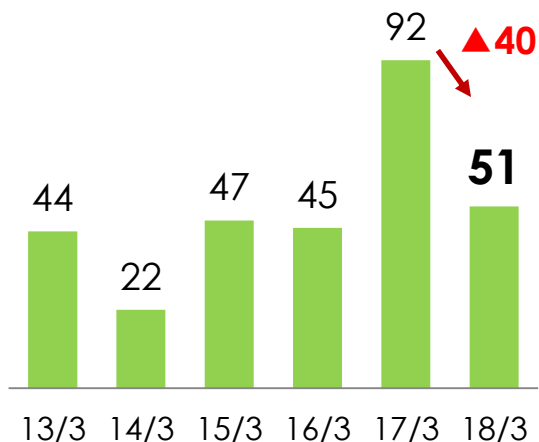
主なポイント

- 受注高は、大規模太陽光設備工事をはじめ、駅ビル及び関連施設工事、銀行支店改修（電気）等を複数受注した結果、78億円と前期比30億円の増加となった。
- 売上高は、太陽光発電設備工事や官庁・民間の大型施設の電気工事が牽引したものの、35億円と前期比11億円の減少となった。

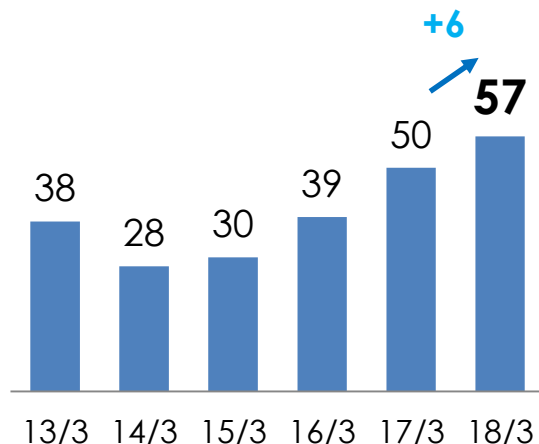
主な施工実績

- ・ 警視庁王子警察署庁舎（26）改築電気設備工事
- ・ 御田神辺池ソーラー発電所建設工事
- ・ 日本銀行支店営業所空調設備等改修電気設備工事
- ・ セレオ八王子北館 レストランフロア改装工事
- ・ みずほ銀行中目黒事務センター 設備更新工事
- ・ つくば中央2-1棟他機械設備（空調）改修その他工事

■ 受注高 (億円)



■ 売上高 (億円)



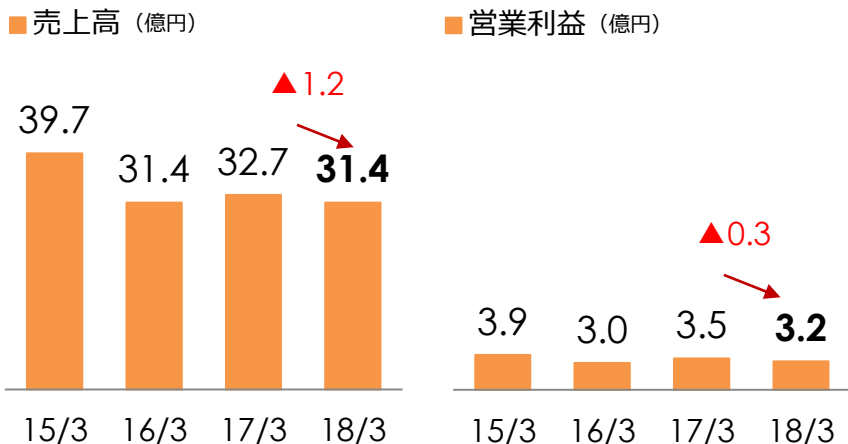
主なポイント

- 受注高は、各電力会社からの送電線建設工事を複数受注したものの、前期に受注した大型プロジェクト工事の反動減により、前期比40億円の減少の51億円となった。
- 売上高は、前期より繰越した各地区における大型送電線建設・改修工事の完成・進捗により、前期比6億円増加の57億円となった。

主な施工実績

- ・ 神栖火力線新設工事他 2 件ならびに関連除却工事
- ・ 沼津 M S 支線新設工事
- ・ 大船渡線他保安対策 7 9 工事ならびに関連撤去工事
- ・ 頸城線他電線張替他工事 (2 工区)
- ・ 北新潟線他電線張替他 2 (共同) 工事 (1 工区)

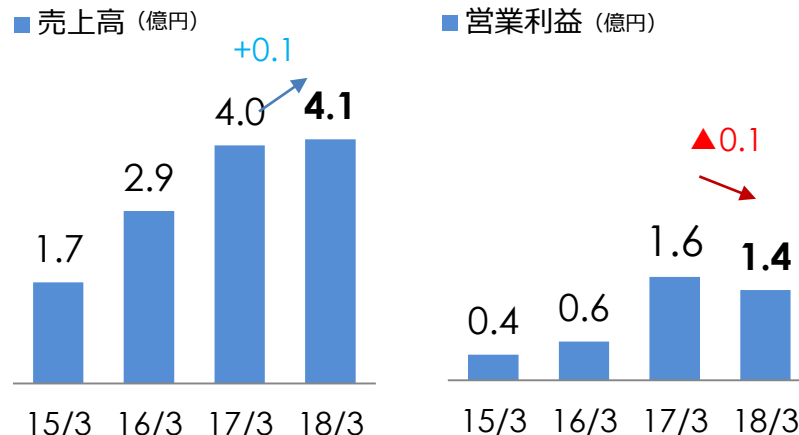
兼業事業



<兼業事業の内容>

- ・ 交通施設に関する標識及び交通安全用品の製造・販売業務
- ・ 建物・関連設備の保守管理業務、機械装置・仮設材関係の保守管理業務

不動産賃貸事業



大崎ブライトタワー
(区分所有)



NRグランディール万代
(個人向け賃貸物件・新潟)



2019年3月期 連結業績予想

連結業績予想サマリー



■業績予想 要旨

- 2019年3月期の業績予想については、**前期比“増収減益（営業・経常増益）”**を予想。
※営業利益、経常利益段階では増益予想。
※中期経営計画“Next Stage 2018”の数値目標達成を目指す。
- 売上高は、引き続き各分野で堅調な受注を確保していくとともに、前期末繰越工事が過去比較し大きいことから、各部門の大型プロジェクト工事の進捗が予定されるため、前期比53億円の大幅増加を見込む。
- 営業利益は、増収により前期比5億円の増加及び前期同水準の利益率を見込む。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、前期の特殊要因（投資有価証券売却益）がなくなること等を加味し、前期比減少を見込む。

(今期の主なトピックス)

- 総合研修センター（ゆめみ野学園）運用開始（2018/4～）
- 設備投資-大宮支社新設・移転（2018/10 竣工予定）

連結業績予想数値



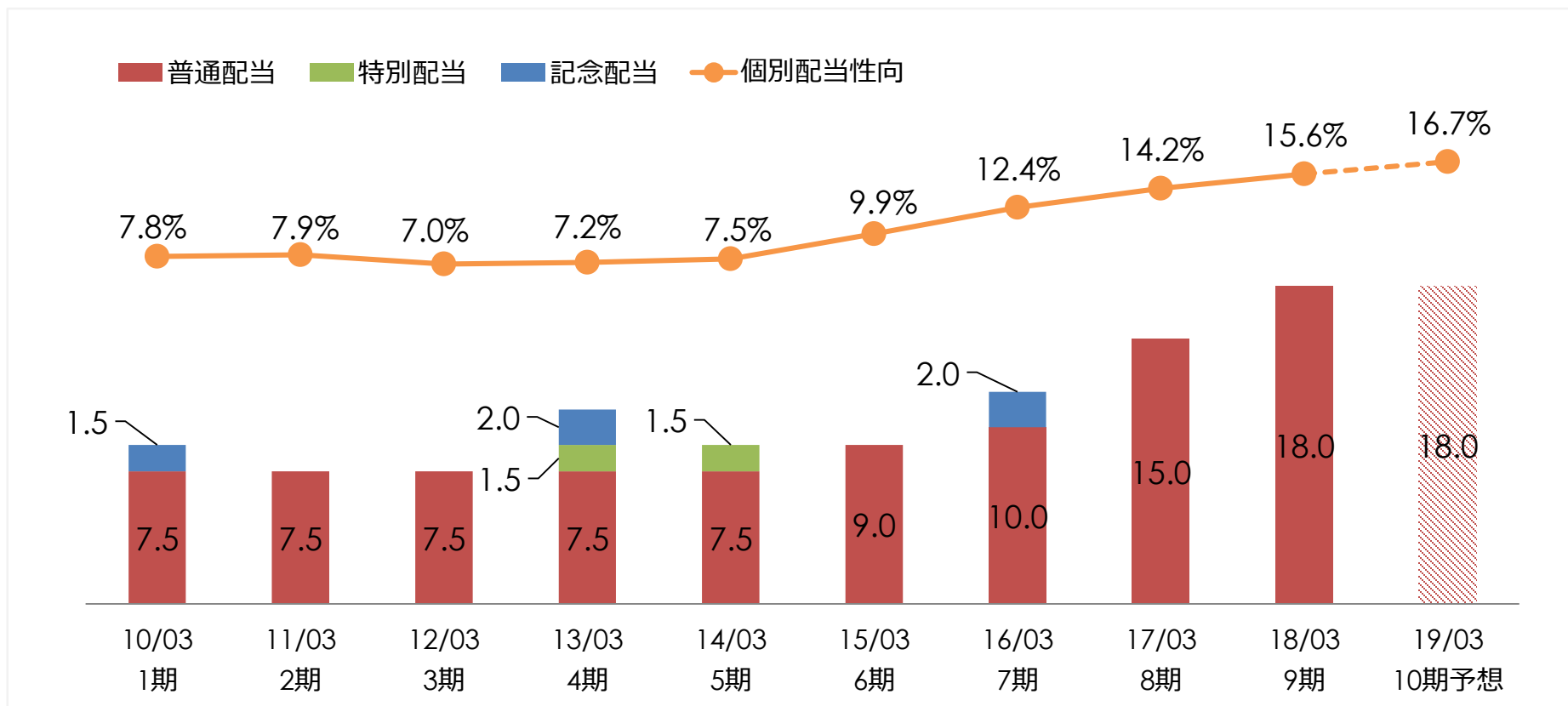
(億円)

	2018年3月期 実績		2019年3月期 予想		前期比
売上高	526		580		+53
営業利益	39	7.5%	45	7.8%	+5
経常利益	46	8.8%	49	8.6%	+3
親会社株主に帰属 する当期純利益	38	7.4%	34	6.0%	▲4

配当方針及び配当状況



当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付けており、経営体質の強化ならびに将来の事業展開に備えるための内部留保を確保しつつ、配当性向にも配慮しながら安定的な配当を継続していくことを基本方針としてまいります。



本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、日本リーテックグループが現時点で入手可能な情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

なお、異なる結果となった場合でも当社は本資料を改定する義務を負いかねますので、ご了承ください。

(お問い合わせ先)

日本リーテック株式会社
総務部 広報・IR課

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-6
T E L : 03-6880-2710
F A X : 03-6880-2750
H P : <http://www.j-rietec.co.jp/>